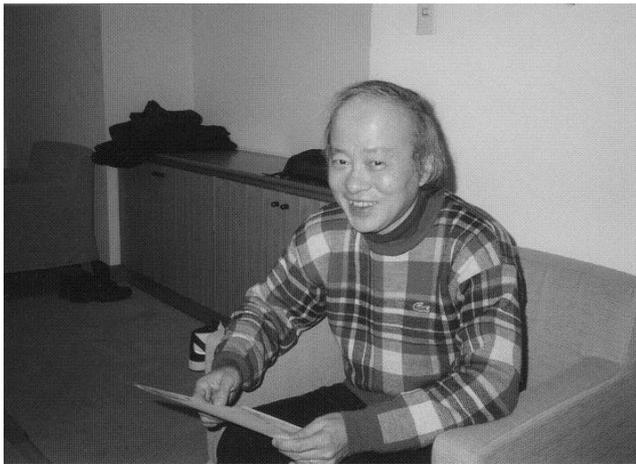


## 1998年（平成10年）

- ・尾高忠明氏常任指揮者に就任
- ・「札幌くらぶコンサート」開催が決定
- ・「札幌くらぶ」編集者交代
- ・尾高氏を囲む会開催

### 尾高氏常任指揮者に

この年3月に首席指揮者を退任した秋山和慶氏に代わり、81年から5年間正指揮者を務めた尾高忠明氏が、札幌としては初代の荒谷正雄氏、ペーター・シュヴァルツ氏に続く3人目の常任指揮者に就任しました。秋山氏と同じくミュージック・アドバイザーを兼ねての就任でした。



常任指揮者に就任した尾高忠明氏

現在は2代目の音楽監督として活躍中の尾高氏は楽員との相性も抜群で、古い楽員からは「チューさん」の愛称で親しまれており、札幌躍進の牽引車になっています。一方で、就任当初から札幌くらぶの活動に深い理解を示され、後に全国プロオーケストラファンクラブ協議会（JOF C）発足の出発点となった、札幌くらぶ提案の「山形宣言」採択の場にも同席されていました。

### 「札幌くらぶコンサート」開催決定

6月9日に行われた札幌くらぶ総会で、活

動方針の一つとして、札幌くらぶコンサートの開催が決議されました。

札幌くらぶが主催するコンサートを、という声は前年5月に盤溪幼稚園で行われた交流会の際に実施した「会員アンケート」にもあり、スタッフ会議でその実現の可能性を探ってきたものでした。

一口に主催のコンサートと言っても、ファンクラブにとっては夢のような大事業で、本当にそんなことが可能なのかということが繰り返し議論されました。幸に札幌の全面支援を受けられることとなり、この日の総会への提案となり、100名近い出席者により、真剣に討議されました。



札幌くらぶコンサートの開催を決定した総会

事務局からの、会員が数枚ずつチケットを売る協力をする、音楽関係の活動をしている高校生を招待する、幼児を含めた家族で楽しめるコンサートにする、という内容の提案に出席者の賛同を得られ、平成11年度の活動計画のメインとして了承されました。

札幌くらぶコンサート開催については、大きく3つのねらいがありました。1つは、こ

のコンサートのチケット販売などの活動を通して、会員の「札幌くらぶの一員として活動している」という意識を高めること、2 つには、チケット販売などによって友人知人に声をかけ、それをきっかけに会員の増加につなげること、3 つ目には、幼児から高校生までの若い世代にキタラで札幌の音を聴いてもらい、次世代の札幌ファンを創出することを目指すというものです。

席上、事務局から「来年4月17日（土）の夜の開催を目指して企画を詰めている」旨の報告があり、札幌くらぶコンサート開催への第一歩が踏み出されました。

## 会報編集者交代

札幌くらぶ発足以来、会報「札幌くらぶ」の編集は、運営委員の和田雅之、小林昭美、鈴木美保、藤田一郎の担当で、和田が編集長を勤めてきました。しかし、その後に和田の仕事上の都合や、何人かが編集から抜けたことなどで、2月に第5号を発行して以来半年以上も発行できない状態が続いていました。年4回発行という目標も達成困難な状態で、早期の編集体制の立て直しに迫られていました。

運営委員会などで検討した結果、会員の佐藤良次が編集に携わってくれることが確認され、編集長を同人に交替して定期発行を目指すことになりました。

## 尾高氏を囲む会

毎年開催してきた会員と楽員の交流会が、この年はちょっと変化しました。既に6月の総会で予告されていましたが、会員からの希望も多い「尾高さんを囲む会」というのをやろうということになりました。札幌事務局を通して尾高さんに打診したところ、出席を快諾していただけることになりました。

尾高さん指揮の札幌第407回定期演奏会の2日前の11月9日、キタラ2階の大会議室を

会場に、70人を超える会員の出席を得て開催されました。

会員の中でも尾高さんに対する期待は高く、これからの札幌を託す若きマエストロの生の声をぜひ聞いてみたい、という希望に沿った開催でした。

上田事務局長の司会で会が始まり、飲みながら食べながらのなか尾高さんが立ち、ご尊父がウィーン留学中現地の人から「オダカ」と濁るのは格好悪いと指摘され「オダカ」を名乗ったエピソードから話し始め「私も戸籍上はオダカですが音楽家としてはオダカでいきます」と話し始められました。



### 尾高氏を囲む会

例によつての軽快な「尾高節」で、ユーモアたっぷりに予定時間をオーバーして話されました。特に「オーケストラにとって、定期演奏会の2回公演は絶対に必要」ということを力説されました。この信念が今の2回公演を実現したのでしょうか。

その後も、会員からの質問に答えるなど、楽しく有益な会となりました。

◎この年「札幌くらぶ」に登場した人  
井上道義（京都市響音楽監督）  
藤川真弓（ヴァイオリニスト）  
北市勝年（Vc）、森圭吾（F1）  
山下暁子（Vn）